

1944(昭和19)年12月9日、フィリピンのレイテ島沖で戦死した一人の兵隊がいた。

松本市波田生まれのテノール歌手、中野一郎である。当時の波多村長、中野拓雄の長男として生まれ、生来の美声で東京音楽学校、現在の武蔵野音楽大学に進み、42(昭和17)

年に学生結婚。翌43年、日本音楽コンクール声楽部門3位と、才能を開花させた。故郷、波多村小津で凱旋

(がいせん)コンサート日、レイテ島増援作戦トでは、「オー・ソレ」でのオルモック輸送作・ミオ「かやの木山」戦に参加し、12月9日、を披露したという。帰らぬ人となつてしましかし、12月には学った。三十数万にのぼ

読者エッセー

海を越えた歌声、 中野一郎のこと

古畑 博子(68歳・松本市波田)

徒出陣。その時、4か
月になるわが子を抱
く、同じ音楽の道を歩
む妻の姿があった。そ
れから1年後の12月5
43年の同コンクール

で、バイオリン部門に
はバイオリニストで前
才能教育研究会会長の
豊田耕児、作曲家で音
楽教科書を編さんした
石桁真礼生、うたごえ
運動の創始者・関忠亮
など、戦後日本の音楽
界の担い手たちがい
た。中野一郎がもし生
きていたら、楽都松本
出身の往年のテノール
歌手と言われていたか
もしれない。
フィリピン、セブ島
最南端リロアンの教会
前広場で、海に向けて
「帰れ ソレントへ」
平和を！
「オー・ソレ・ミオ」
「サンタルチア」など
イタリア民謡を朗々と
歌って、部隊みなを沸
かせたという。間もな
く、70人の所属艇隊の
うち49人が中野一郎と
共にオルモックの海で
戦死。今はダイビング
の若者たちでにぎわつ
た。観光地である。終戦8
カ月前のことであつ
た。
戦争は、かけがえの
ない命をどれだけ奪つ
ていくことだろう。そ
して今も。平和を！